

ハリエンジュ (別名：ニセアカシア)

科名：マメ科
学名：*Robinia pseudoacacia*
原産地域：北アメリカ

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来植物の駆逐

- ・早い成長と生育範囲の拡大により在来植物を駆逐する
- ・優占する状態が長期間継続する

産業：果樹への被害

- ・リンゴ炭疽病を媒介し、リンゴやナシ等への感染源となるおそれがある

生活：洪水時の水流障害

根が倒れやすいため

- ・優占する山地で、斜面崩壊をもたらすおそれがある
- ・洪水時に流木となり、流下を阻害する

河川区域や山地斜面で面的に生育している場合、洪水時の流下阻害や山腹崩壊の要因となるおそれがあることから、適切な管理が必要となっています

高さ 25m 以上になる落葉高木



4～6月、白色で芳香がある、長さ2cm程の花をたくさんつける

秋頃にさや状の形をした果実(豆果)をつける



- ・葉の付け根にトゲがある
- ・葉は奇数羽状複葉

【産業への活用も】

適切な管理のもと、産業上の活用が認められている外来種です

- ・蜜量が多く、はちみつ採取の蜜源植物に利用
- ・生育が早く、硬い木材として家具等に利用



家具



樽

【生育場所】

- ・河原、溪流沿い、市街地、自然林、植林地、海岸、耕作放棄地、草原、岩地等
- ・特に河川の中州や高水敷に多い

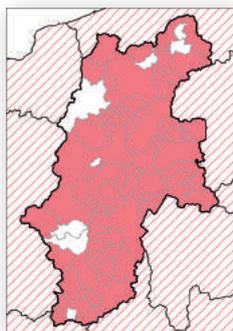
【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・緑化樹種として各地で導入
- ・現在は、県内に広く野生化

全国では

- ・土壌を選ばず成長し、地力を向上させることから、明治以降、緑化樹木や街路樹等に利用
- ・河川上流域の治山・砂防事業で導入され、河川下流域に種子が散布されたといわれている
- ・たくさんの花をつけることから養蜂の蜜源としても広く利用されてきた
- ・現在は、全国各地で野生化



2019年現在
■ 定着
▨ 一部地域に定着

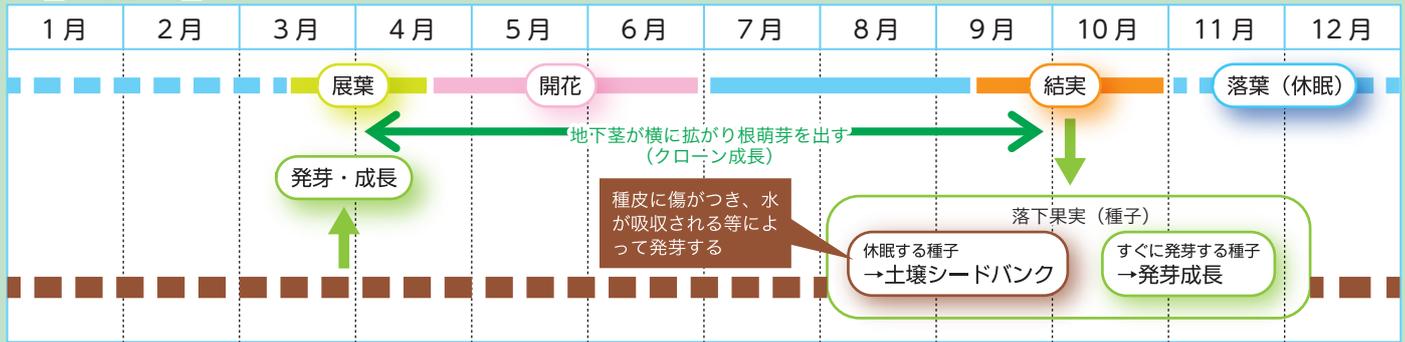
世界の分布

- ・世界各地に広く分布 (主に温帯域)

【特性】

- ・発芽後の成長が早い
- ・親株から伸びた根、切株、倒木から芽を出す
- ・地下で水平に伸びた根から芽(根萌芽)を出し分布を拡大(クローン成長)、萌芽は2年で花をつける
- ・窒素固定するバクテリアと根で共生し、やせた土壌でも旺盛に成長
- ・窒素をたくさん含んだ葉を落とすことにより土壌が富栄養化する(そのため肥料木と呼ばれる)
- ・根等から他の植物の成長を阻害する化学物質を放出する(アレロパシー)
- ・根は地表付近に伸びる(浅根性)
- ・種子は休眠するタイプとすぐに発芽するタイプがある
- ・地面に落下し休眠する種子は、土壌に蓄積して土壌シードバンクを形成する(種皮に傷がつき、水が吸収されるなどによって発芽する)
- ・暑さ、寒さ、乾燥に耐性があり、耐陰性はない

【生活史】



ハリエンジュは産業上重要な種であり、特に養蜂家の方にとっては貴重な蜜源植物です。代替できる種もないため、適切な管理のもと、産業上の活用が認められている外来種です。



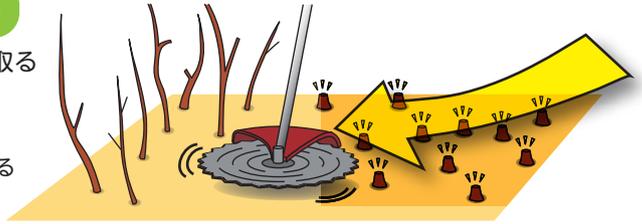
希少種保全の観点等から防除を行う場合には、周囲に養蜂業を営む者がいないか、事前に確認し、十分に配慮してください。

※問い合わせ先 長野県養蜂協会 電話 026-228-8890

【防除方法】 防除を行う場合には、以下の方法があります。目的（拡大抑止、面的除去）や立地条件、労力を考慮して選択してください。

高木化や分布拡大の抑止 抑える・増やさない

- 鎌や刈払機等で実生や幼個体の地上部を刈り払う、または抜き取る
- 年に3回以上、3年以上実施する
 - ※ 鎌等で手軽に実施できる
 - ※ 土壌中には大量の種子が、また周囲からも種子が流入する可能性がある
 - ※ 伐採等の手法と併せて、毎年継続して実施していく必要がある



他樹種と伐採による成長抑止 他の木を育てて弱らせる

複数年かけて他の樹種の成長をうながし、ハリエンジュを日陰にすることで小型化を目指す

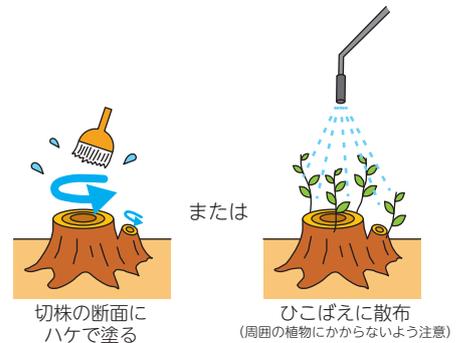
- チェーンソーやのこぎり、小木の場合は刈払機等によりハリエンジュを伐採する
- 年に3回以上、3年以上実施（種子生産を抑えるため、6月の梅雨時には必ず実施）
 - ※ 年1回の伐採では、切株からたくさんの萌芽（ひこばえ）が発生し、成長してしまう
 - ※ 最初は年3回以上実施し、ハリエンジュが減ってきたら回数を減らす（ただし、6月は必ず実施すること）
 - ※ 伐採後、ハリエンジュ以外の樹種が生育しない場合は、立地環境に適した地域由来の樹木を植栽する



伐採＋除草剤 面的に除去する

伐採と除草剤によって面的に除去する

- 伐採直後に、株の切断面にハケなどを用いて除草剤を十分に塗る
 - ※ 除草剤を使用することにより伐採回数を減らす等、手間とコスト削減が期待できる
- 除草剤は、切株の切断面（主に辺材から形成層）に塗布する
- 伐採から2週間ほど経って萌芽（ひこばえ）がひざの高さくらいになったら、萌芽（ひこばえ）にも除草剤を散布する
 - ※ 周囲の植物にかからないよう注意すること
 - ※ 除草剤は「登録農薬」（注1）を使用すること



伐採だけで面的除去を実現できない場合は、上記の複数の方法を組み合わせてみてください。ハリエンジュは、見えない土壌中に大量の種子が存在する場合があります。周辺からの種子の流入や土壌中の種子とも根気よく付き合う必要があります。

※1：登録農薬…効力、安全性、毒性、残留性等に関する試験成績を提出して審査を受け、行政庁（農林水産大臣）の承諾を取得したものの。登録された農薬は、安全・適正な使用方法が薬剤ごと、対象作物ごとに登録時に決められています。除草剤等の農薬については適切な利用が求められます。